

# 子ども家庭相談にまつわるよもやま話 ～ 実際にあったこんな相談と対応～

2017年10月28日（土） 下関社会福祉センター

● 講師：野坂隆夫（下関市こども未来部こども保健課 課長）



「今笑顔になれる社会」ということに共感を覚えている一人です。家庭でも、どんな時も、笑っていられる。笑顔は人間関係をスムーズにしていくのですとも言われていました。

一年の中、心ときめくイベント…誕生日のお祝いですがそれさえも祝ってもらえない子供がいるということや、しっかり手と手を握っている親子の手も離別の憂き目にあうこともあるのです

4年前今の部署が創設されその時からの業務で子供たちの現実に対面してきましたが、全ての子たちを支援することは難しい現状です。

昭和の時代にも虐待、ネグレスト、イジメ、発達障害等の子どもの問題はありましたが、今ほど酷いものではなかったようです。

生まれてから15年間は子供の成長期に重要な時期です。それぞれの年齢に応じた教育機関に任せたままでいいのですか？短い時間ですべて見通せるのは難しく、周りの大人が関心を持つ、注意深く見る、小さなことも見落とさないで子供たちを見守りましょう。

● 講師：原田佳二（下関児童相談所 調整監）

児童相談所とは18才までの子供についてのあらゆる相談に応じるところです。ここ最近の傾向としては虐待問題が山口県でも551件と昨年より166件多くなっています。子供への援助としては責めるのではなく、それに至った経緯で真実を見極める事なのです。「がんばれ」でなく「応援するよ」という言い方が良いです。

欠点を指摘するより、その子に合った褒め方をするべきで、良いところを具体的に表現してほしいのです

子どもから発せられるSOSは大人には判りにくく、栄養不足、刺激不足による発育不足も起こりうる事なのです

児童虐待対応の優先順位

- ①こどもに安心安全を
- ②不必要に傷つけない
- ③介入によるダメージの最小化
- ④相談者自身による問題解決の最大化の努力をあげられていました。

子どもには「自身が悪い、だから虐待を受けると思っている。そうじゃない！」としっかり説明することです。



● 講師：守田里美

（下関市こども未来部子ども保健課 家庭児童相談支援係係長）

- 支援の必要性
- ◎親の認識不足・支援者がいない
  - ◎養育放棄・家出児童
  - ◎10代の妊娠・検診を受けていない
  - ◎出産後の育児不安

これを解決するには、地域で声かけ・児童民生委員、児童相談所、子ども保健課に知らせることで。今までは家族や地域の支援が受けられていました。その支援が薄くなった今、環境の変化に伴い切れ目のない政策の中での支援を厚くと思っています。

覚えていてください。 児童相談所「ダイヤル189」です。(全国共通)

・・・最後に、野坂課長さんがある少年のことを叙事詩のように話されました・・・

「小学校低学年の時に母親を亡くし、4年生の時に父親のアルコール依存からの暴力に生活は荒れ、希望も無くしてた。5年生の担任は彼の一年生の時の生活記録を読んで、深い悲しみに襲われた。その後、放課後に宿題を見たり、心の母としてその担任は見守っていきました。少年は長じて医師になり、さらに結婚式には「母親」の席への招待がありました。このような先生に恵まれ、少年は幸せでした。」

これからは皆さんの子供たちに注がれる目が大切になります。どうかよろしく願い致します。

文責 波田澄子